

修正内容一覧

物質ID	物質名	CAS番号	項目	修正前						修正後						備考
				分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性H410	注意書き	分類根拠・問題点	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性H410	注意書き	分類根拠・問題点	
25A0004	ジフェニルカルボナート	102-09-0	特定標的臓器毒性(単回暴露)	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	マウスの経口投与においてガイダンスの区分2の範囲内(1,500 mg/kg)で間代性産暈が認められたため(SIDS(2006))区分2(神経系)とした。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	ラットの経口投与においてガイダンスの区分2の範囲内(1,500 mg/kg)で間代性産暈が認められたため(SIDS(2006))区分2(神経系)とした。	2021.10修正
25A0006	ジプロピレングリコールブチルエーテル	29911-28-2	生殖細胞変異原性	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	分類ガイダンスの改訂により「区分外」が選択できなくなったため、「分類できない」とした。すなわち、in vivoでは、マウス奇蹄細胞の小核試験で陰性である(IUCLID(2000))、in vitroでは、細菌の体細胞変異試験、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験で陰性(IUCLID(2000))、哺乳類培養細胞の染色体異常試験で陰性、陽性の結果が存在する(IUCLID(2000))。しかし、SIDS(2005)では、本物質を含む一連のポリエチレングリコールエーテル類にin vivoの遺伝毒性を示す証拠はない。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	分類ガイダンスの改訂により「区分外」が選択できなくなったため、「分類できない」とした。すなわち、in vivoでは、マウス奇蹄細胞の小核試験で陰性である(IUCLID(2000))、in vitroでは、細菌の体細胞変異試験、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験で陰性(IUCLID(2000))、哺乳類培養細胞の染色体異常試験で陰性、陽性の結果が存在する(IUCLID(2000))。しかし、SIDS(2005)では、本物質を含む一連のポリエチレングリコールエーテル類にin vivoの遺伝毒性を示す証拠はない。	2021.10修正
25A0006	ジプロピレングリコールブチルエーテル	29911-28-2	水生環境有害性(急性)	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	藻類(Green Alga, ECOSAR)の72時間ErC50 = 556.4 mg/L(SIDS, 2005)、甲殻類(オオシジコ)48時間LC50 > 1000 mg/L(SIDS, 2005)、魚類(ゼブラフィッシュ)96時間LC50 = 841 mg/L(SIDS, 2005)から区分外とした。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	藻類(Green Alga, ECOSAR)の96時間ErC50 = 556.4 mg/L(SIDS, 2005)、甲殻類(オオシジコ)48時間LC50 > 1000 mg/L(SIDS, 2005)、魚類(ゼブラフィッシュ)96時間LC50 = 841 mg/L(SIDS, 2005)から区分外とした。	2021.10修正
25A0007	2,5,8,11-テトラオキサドデカン	112-49-2	生殖毒性	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	ラットの雄では反復経口投与により、精巣の矮小化、精子減少又は無精子症を生じ(ECETOC TR64(1995))、性機能を抑制する。また、マウス及びラットの器官形成期に経口投与した試験において、母動物に顕著な毒性(体重増加抑制)を生じる用量で奇形の発生頻度の増加が報告されている(ECETOC TR64(1995))。以上より、区分2に分類した。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	ラットの雄では反復経口投与により、 <b>精巣重量減少</b> 、 <b>精細管の変性</b> を生じ(ECETOC TR64(1995))、 <b>雄性生殖器に影響を与える</b> 。また、マウス及びラットの器官形成期に経口投与した試験において、母動物に顕著な毒性(体重増加抑制)を生じる用量で奇形の発生頻度の増加が報告されている(ECETOC TR64(1995))。以上より、区分2に分類した。	2021.10修正
25A0007	2,5,8,11-テトラオキサドデカン(別名:トリエチレングリコールジメチルエーテル)	112-49-2	特定標的臓器毒性(反復暴露)	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	ラットの4週間経口投与試験で区分2のガイダンス値の範囲内の用量(90日換算: 83 mg/kg/day)で、胸腺重量の減少が見られる(CECETOC TR64(1995))が、組織変化を伴う変化でなく、分類を支持する所見に該当しない。なお、同試験では区分外の用量(90日換算: 311 mg/kg/day)において、精巣への影響(重量減少、精細管上皮の変性、精子減少又は無精子)及び胸腺の萎縮が見られている。したがって、経口経路では区分外相当であるが、他の経路での毒性情報がなく、データ不足のため分類できない。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	ラットの4週間経口投与試験で区分2のガイダンス値の範囲内の用量(90日換算: 83 mg/kg/day)で、胸腺重量の減少が見られている(CECETOC TR64(1995))が、組織変化を伴う変化でなく、分類を支持する所見に該当しない。なお、同試験では区分外の用量(90日換算: 311 mg/kg/day)において、精巣への影響(重量減少、精細管上皮の変性、精子減少又は無精子)及び胸腺の萎縮が見られている。したがって、経口経路では区分外相当であるが、他の経路での毒性情報がなく、データ不足のため分類できない。	2021.10修正
25A0010	1-フェキシントプロハール	770-35-4	特定標的臓器毒性(反復暴露)	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	データ不足のため分類できない。なお、ラットの28週間経口投与試験では区分2の範囲を上回る用量(478 mg/kg/day)で体重増加抑制がみられたものの、区分2の用量範囲内で毒性影響は見られていない(SIDS(2006)、PATTY(6th, 2012))との記述、並びにウサギにおける28日間経口投与試験では、試験した最高用量(1,000 mg/kg/day: 333 mg/kg/day(90日換算))まで全身毒性影響は見られていない(SIDS(2006)、PATTY(6th, 2012))との記述より、経口及び経皮経路では区分外相当であるが、吸入経路での情報がなく、データ不足のため分類できないとした。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	データ不足のため分類できない。なお、ラットの28週間経口投与試験では区分2の範囲を上回る用量(478 mg/kg/day)で体重増加抑制がみられたものの、区分2の用量範囲内で毒性影響は見られていない(SIDS(2006)、PATTY(6th, 2012))との記述、並びにウサギにおける28日間経口投与試験では、試験した最高用量(1,000 mg/kg/day: 333 mg/kg/day(90日換算))まで全身毒性影響は見られていない(SIDS(2006)、PATTY(6th, 2012))との記述より、経口及び経皮経路では区分外相当であるが、吸入経路での情報がなく、データ不足のため分類できないとした。	2021.10修正
25A0011	トピチルパーオキシオクトエート	3006-82-4	水生環境有害性(長期間)	区分2	変更なし	-		変更なし	慢性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく(分解性試験において被験物質は試験液中で変化し、変化物であるtert-ブチルアルコールは残留した(既存点検, 2002))、藻類(Pseudokirchneriella subcapitata)の72時間NOEC(r) = 0.017 mg/L(環境省生態影響試験, 2002)から区分2となる。 慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく(分解性試験において被験物質は試験液中で変化し、変化物であるtert-ブチルアルコールは残留した(既存点検, 2002))、魚類(メダカ)の96時間LC50 = 4.6 mg/L(環境省生態影響試験, 2002)であることから区分2となる。 以上の結果から、区分2とした。	区分1	変更なし	警告	H410-長期継続的影響によって水生生物に強い毒性	変更なし	慢性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく(分解性試験において被験物質は試験液中で変化し、変化物であるtert-ブチルアルコールは残留した(既存点検, 2002))、藻類(Pseudokirchneriella subcapitata)の72時間NOEC(r) = 0.017 mg/L(環境省生態影響試験, 2002)から区分2となる。 慢性毒性データが得られていない栄養段階(魚類)に対して急性毒性データを用いた場合、急速分解性がなく(分解性試験において被験物質は試験液中で変化し、変化物であるtert-ブチルアルコールは残留した(既存点検, 2002))、魚類(メダカ)の96時間LC50 = 4.6 mg/L(環境省生態影響試験, 2002)であることから区分2となる。 以上の結果から、区分1とした。	2022.06修正 分類区分の修正等
25A0014	トリメトキシ(メチル)シラン	1185-55-3	特定標的臓器毒性(単回暴露)	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	ラットの強制経口投与により回復性の沈黙状態、運動失調がみられた(SIDS(2011))ため区分3(麻酔作用)とした。また、ラットの吸入ばく露(42 mg/L)において、膀胱の結石、腎臓の細胞増殖、腎臓肥大、前立腺の腫瘍がみられた(SIDS(2011))、ガイダンスの範囲外での用量における所見であるため標的臓器としなかった。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	ラットの強制経口投与により回復性の沈黙状態、運動失調がみられた(SIDS(2011))ため区分3(麻酔作用)とした。また、ラットの吸入ばく露(42 mg/L)において、膀胱の結石、腎臓の細胞増殖、腎臓肥大、前立腺の腫瘍がみられた(SIDS(2011))、ガイダンスの範囲外での用量における所見であるため標的臓器としなかった。	2021.10修正
25A0021	2,6-ジエチルピロリジンジアミン	579-66-8	特定標的臓器毒性(反復暴露)	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	データ不足のため分類できない。なお、EPA HPV-IS(Access on October 2013)以下の経口、経皮及び吸入ばく露による試験結果が報告されている。すなわち、ラットの90日間経口投与試験において、区分外相当の高用量(0.72%: 360 mg/kg/day)まではコレステロールの上昇と肝臓重量の増加がみられたのみであった。ラットに28日間経皮ばく露した試験では、区分2に該当する用量(93.9 mg/kg/day(90日換算))で肝臓重量増加、血清GPT及びGOT上昇への影響がみられている。また、ラットに本物質の蒸気を30日間又は90日間吸入ばく露した試験では、最高濃度の0.1 mg/Lまで毒性影響はみられていない。しかし、イヌイ0.27 mg/Lの蒸気を20回ばく露(0.06 mg/L(90日換算))した試験において、ばく露した2例中1例が死亡し、死亡例、生存例とも肝臓(慢性壊死)及び腎臓(尿管上皮の変性)に病理変化が認められている。これらの情報はList外の情報源である。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	データ不足のため分類できない。なお、EPA HPV-IS(Access on October 2013)以下の経口、経皮及び吸入ばく露による試験結果が報告されている。すなわち、ラットの90日間経口投与試験において、区分外相当の高用量(0.72%: 360 mg/kg/day)まではコレステロールの上昇と肝臓重量の増加がみられたのみであった。ラットに28日間経皮ばく露した試験では、区分2に該当する用量(93.9 mg/kg/day(90日換算))で肝臓重量増加、血清GPT及びGOT上昇への影響がみられている。また、ラットに本物質の蒸気を30日間又は90日間吸入ばく露した試験では、最高濃度の0.1 mg/Lまで毒性影響はみられていない。しかし、イヌイ0.27 mg/Lの蒸気を20回ばく露(0.06 mg/L(90日換算))した試験において、ばく露した2例中1例が死亡し、死亡例、生存例とも肝臓(慢性壊死)及び腎臓(尿管上皮の変性)に病理変化が認められている。これらの情報はList外の情報源であるため分類に用いなかった。	2021.10修正
25A0024	1,2-ビスベンゾチアゾール-5,5'-ジイル-アルキルエステ	3648-20-2	呼吸器感受性	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	データ不足のため分類できない。なお、ECHA(Access on October 2013)に、未希釈の本物質を用いた104人でのヒト連続ハッチテスト(HRIP)の結果、感受性に対する証拠は得られなかったとの記載がある。この情報はList外の情報源であるため分類に用いなかった。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	データ不足のため分類できない。	2021.10修正



25B0016	インプロピルアルコール	67-63-0	生殖毒性	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	ラットの経口投与による2世代試験では生殖発生毒性は認められなかったとの記述がある(IARC 71 (1999)、EHC 103 (1990))が、このデータの詳細は明らかではない。比較的短いラットの経口投与による2世代試験では親動物一般毒性影響(肝臓及び腎臓の組織変化や体重増加)が認められる用量で、雄親動物に交尾率の低下、児動物には生後に体重の低値及び死亡率の増加が見られたと記述されている(PATTY (6th, 2012))。雄親動物における交尾率の低下と新生児への有害影響は、親動物への一般毒性による二次的・非特異的な影響とは考えがたい。また、妊娠遅延(ラット)や胎児の発生(マウス)試験において、胎児は軽微な影響(体重低値、骨格異常)が見られたのみで、奇形の発生はなかったが、母動物毒性(不安定歩行、嗜眠、摂餌量及び体重増加減少)がみられる用量で着床不全・全胚吸収など生殖発生毒性影響が認められている。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	2021.10修正			
25B0018	エチレン	74-85-1	高圧ガス	圧縮ガスまたは深冷液化ガス	-	-	-	-	-	-	-	ラットの経口投与による2世代試験では生殖発生毒性は認められなかったとの記述がある(IARC 71 (1999)、EHC 103 (1990))が、このデータの詳細は明らかではない。比較的短いラットの経口投与による2世代試験では親動物一般毒性影響(肝臓及び腎臓の組織変化や体重増加)が認められる用量で、雄親動物に交尾率の低下、児動物には生後に体重の低値及び死亡率の増加が見られたと記述されている(PATTY (6th, 2012))。雄親動物における交尾率の低下と新生児への有害影響は、親動物への一般毒性による二次的・非特異的な影響とは考えがたい。また、妊娠遅延(ラット)や胎児の発生(マウス)試験において、胎児は軽微な影響(体重低値、骨格異常)が見られたのみで、奇形の発生はなかったが、母動物毒性(不安定歩行、嗜眠、摂餌量及び体重増加減少)がみられる用量で着床不全・全胚吸収など生殖発生毒性影響が認められている。	圧縮ガスまたは深冷液化ガス	ガスボンベ	警告	高圧ガス:熱する危険なおそれ 深冷液化ガス:凍傷又は爆発	2021.10修正				
25B0018	インプロピルアルコール	74-85-1	急性毒性(吸入:ガス)	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	ラットで10,000 ppm、25,000 ppm、57,000 ppm(65.50 mg/m <sup>3</sup> )の4時間ばく露により影響が認められなかったとの記述(IARC 60 (1984))。PATTY (6th, 2012)、及びラットで50,000 ppmまでの4時間ばく露により影響なしとの記述(ACGIH (7th, 2001))に基づいて、区分外とした。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	2021.10修正			
25B0020	シクロロジアルオキサロメタン	75-71-8	急性毒性(吸入:ガス)	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	ラット吸入ばく露(C <sub>50</sub> :760,000、LD <sub>50</sub> :800,000mg/L/3(4時間換算値:268,701、282,842 ppm)(DFGOT vol.5 (1993))の値は12,500 ppm(気体 2,000 ppm(区分4))を超えているため、区分外とした。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	2021.10修正			
25B0024	グリオキサル	107-22-2	眼に対する重篤な刺激性/眼刺激性	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	ウサギを用いた眼刺激性試験(OECD TG 405準拠)では、「軽度の刺激性」がみられたとの記述がある(NITE初期リスク評価書(2008))。ウサギを用いた別の試験では、「 <b>紅斑と軽度浮腫がみられ、8日後に完全に回復した。</b> 」(「結膜に軽度の紅斑と軽度の浮腫、虹彩に炎症と濁りが見られた。1〜2週間「症状が治まった。」との記述がある(SIDS (2003))。さらに、本物質は、EU DSD分類において「Xn: R61/63」、EU CLP分類において「Xn: R66/68」、EU CLP分類において「Eye Irrit. 2 H319」に分類されている。以上の情報に基づき逆的な重篤の刺激性を有すると考え、区分2Aとした。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	2021.10修正			
25B0032	2-メチル-5-メチルアニリン	120-71-8	眼に対する重篤な刺激性/眼刺激性	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	DFGOT vol.4 (1992)の「ウサギの眼に重度刺激性である」との記述、及び HSD8 (Access on July 2013)の「 <b>眼刺激性あり</b> 」との記述から、区分2Aとした。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	2021.10修正			
25B0040	塩化トリフェニルエース	639-58-7	特定種の臓器毒性(単回暴露)	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	データ不足のため分類できない。なお、 <b>水酸化トリフェニルエース(CAS: 76-87-9)</b> では動物の単回経口投与において、嘔吐、痙攣、睡眠などの中枢神経系症状が <b>区分1のガイダンス値範囲内</b> に認められている(CICAD, 13 (1999))。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	2021.10修正			
25B0044	過酸化水素	7722-84-1	生殖毒性	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	データ不足のため分類できない。なお、EOETOC JACC (1993)でのラットを用いた経口(飲水)経路での試験で、精子運動能への影響、雌の発情期への影響、出産母動物数の減少及び出生児の体重減少がみられたとの報告は、記述が不十分であったと評価することができない。また、経口(飲水)経路で雄マウス、雄マウスへの影響、雄の生殖能への影響については、対照群を用いていない限定的な試験から確実に結論し出せない。したがって、分類できないとした。なお、最も新しい評価書であるEU-RAR(2003)では、限られた生殖毒性試験の結果から生殖機能に重大な障害は示されていないこと、マウスを用いた90日間反復毒性試験、マウス及びラットを用いた急性経口試験において生殖毒性は認められなかったこと、生殖毒性物ではないACGIH (7th, 2001)、EHC 188 (1997)及びPATTY (6th, 2012)のヒトで長期ばく露により肺疾患を起こすとの記述、並びにACGIH (7th, 2001)のマウス3-12ヶ月間反復吸入ばく露により、区分1のガイダンス値範囲の濃度(0.5 ppm)で肺動脈圧が見られたとの記述から、区分1(肺)とした。また、サルに5 ppmを2ヶ月、又は10 ppmを1ヶ月間吸入ばく露した試験で、ばく露群では組織(肺炎増悪)及びインフルエンザウイルス感染による死亡率が増加し、感染後抵抗性の顕著な低下が見られた(ACGIH (7th, 2001)に引用された原著(Henry, M.C. et al. (1970)を入手し内容を確認)との記述、並びにラットに1 ppmを6ヶ月間吸入ばく露した試験で、血清免疫グロブリンの全面分画及び補体濃度の減少が見られた(EHC 188 (1997))との記述から、ヒトでも本物質への長期吸入ばく露により、呼吸器系の免疫抵抗性の低下、免疫抑制を生ずる可能性が指摘されている(PATTY (6th, 2012)、DFGOT vol.19 (2003))には、モルモットを用いたマキシメーション試験(OECD TG 406)で感作性は認められなかったとの結果と、陽性率が25-30%で、「陽性とはみなされない」(GHS文書)では30%以上(アジラント使用)の反応で陽性とみなされていた結果が報告されている。一方、ヒトでは本物質を含む目薬液により、眼、鼻、喉及び胸に広範囲の刺激性の発赤、小児発疹を起こした男性1人にに対し本物質の70%溶液をパッチテストした結果、紅斑と水泡がみられたとの報告(NITE有害性評価書(2007))や本物質は重大な感作性を有すると結論できない(DFGOT vol.19 (2003))と記載されている。以上の情報でラットを用いた経経経経(強制)生殖発生毒性スクリーニング試験(OECD TG 421)において、発情期一般毒性(雄で腎臓重量増加、雌で投与2-4週間の間、一過性の傾眠、運動失調)がみられる用量で妊娠期間の延長がみられ、さらに親動物に肝臓重量増加(雄)、雌で妊娠期間中の体重増加抑制がみられる用量で死産児数増加、生存児数減少、生存児低体重、平均同腹児数の低下がみられている(NITE有害性評価書(2007))。また、マウスの妊娠20日に経経投与による用量依存性同腹児数低下と死産児数増加がみられている(NTP TR53 (1997)、NITE有害性評価書(2007)、DFGOT vol.19 (2003))。また、ラットの妊娠8日~出生までの <b>経経投与</b> により、親動物で体重増加抑制が認められた用量で分娩時体重減少、生後の体重増加抑制、同腹児数低下、周産期及び生後の死亡数増加が示されている(DFGOT vol.19 (2003))。以上に基づき、区分2とした。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	2021.10修正			
25B0048	二酸化窒素	10102-44-0	特定種の臓器毒性(反復暴露)	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	データ不足のため分類できない。なお、 <b>トリフェニルエース化合物</b> においては動物への単回経口投与において、嘔吐、痙攣、睡眠などの中枢神経系症状が <b>区分1のガイダンス値範囲内</b> に認められている(CICAD, 13 (1999))。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	2021.10修正			
25B0053	tert-ブタノール	75-65-0	皮膚感作性	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	DFGOT vol.19 (2003)には、モルモットを用いたマキシメーション試験(OECD TG 406)で感作性は認められなかったとの結果と、陽性率が25-30%で、「陽性とはみなされない」(GHS文書)では30%以上(アジラント使用)の反応で陽性とみなされていた結果が報告されている。一方、ヒトでは本物質を含む目薬液により、眼、鼻、喉及び胸に広範囲の刺激性の発赤、小児発疹を起こした男性1人にに対し本物質の70%溶液をパッチテストした結果、紅斑と水泡がみられたとの報告(NITE有害性評価書(2007))や本物質は重大な感作性を有すると結論できない(DFGOT vol.19 (2003))と記載されている。以上の情報でラットを用いた経経経経(強制)生殖発生毒性スクリーニング試験(OECD TG 421)において、発情期一般毒性(雄で腎臓重量増加、雌で投与2-4週間の間、一過性の傾眠、運動失調)がみられる用量で妊娠期間の延長がみられ、さらに親動物に肝臓重量増加(雄)、雌で妊娠期間中の体重増加抑制がみられる用量で死産児数増加、生存児数減少、生存児低体重、平均同腹児数の低下がみられている(NITE有害性評価書(2007))。また、マウスの妊娠20日に経経投与による用量依存性同腹児数低下と死産児数増加がみられている(NTP TR53 (1997)、NITE有害性評価書(2007)、DFGOT vol.19 (2003))。また、ラットの妊娠8日~出生までの <b>経経投与</b> により、親動物で体重増加抑制が認められた用量で分娩時体重減少、生後の体重増加抑制、同腹児数低下、周産期及び生後の死亡数増加が示されている(DFGOT vol.19 (2003))。以上に基づき、区分2とした。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	2021.10修正
25B0053	tert-ブタノール	75-65-0	生殖毒性	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	ラットを用いた経経投与試験(500-2,000 mg/kgで中枢神経系への影響(流涎過多、手足反位、前肢及び後肢痺等、痙攣に次ぐ劇臥位、振戦、虚脱、高覚反射の欠如、活動低下、運動失調、嘔吐、徐呼吸)がみられ(EU-RAR (2009))。マウスの経口投与(350-800 mg/kg)では協調不能と歩行反応(腎臓重量)、痙攣抑制の欠如、前肢の痺痺(EU-RAR (2009))が報告されている。ラットを用いた粉じん吸入ばく露ではガイダンス1の範囲内の濃度(0.495-1.802 mg/L)で前肢の神経障害及び精巣への影響が報告されている(EU-RAR (2009))。以上の結果から区分1(中枢神経系)とした。また、ラット経口投与試験(500-2,000 mg/kg)において、生存例の精巣で <b>精細管</b> の生殖細胞変性による高頻性萎縮がみられ、別の試験でも組織学的に精巣の低精子形成が720 mg/kgの経口投与の全例で認められ、卵巣に比べ精巣での生殖細胞変性が高い(EU-RAR (2009))との記述から、区分1(中枢神経系)とした。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	2021.10修正			
25B0054	p-tert-ブタノール安息香酸	99-73-7	特定種の臓器毒性(単回暴露)	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	ラットを用いた経経投与試験(500-2,000 mg/kgで中枢神経系への影響(流涎過多、手足反位、前肢及び後肢痺等、痙攣に次ぐ劇臥位、振戦、虚脱、高覚反射の欠如、活動低下、運動失調、嘔吐、徐呼吸)がみられ(EU-RAR (2009))。マウスの経口投与(350-800 mg/kg)では協調不能と歩行反応(腎臓重量)、痙攣抑制の欠如、前肢の痺痺(EU-RAR (2009))が報告されている。ラットを用いた粉じん吸入ばく露ではガイダンス1の範囲内の濃度(0.495-1.802 mg/L)で前肢の神経障害及び精巣への影響が報告されている(EU-RAR (2009))。以上の結果から区分1(中枢神経系)とした。また、ラット経口投与試験(500-2,000 mg/kg)において、生存例の精巣で <b>精細管</b> の生殖細胞変性による高頻性萎縮がみられ、別の試験でも組織学的に精巣の低精子形成が720 mg/kgの経口投与の全例で認められ、卵巣に比べ精巣での生殖細胞変性が高い(EU-RAR (2009))との記述から、区分1(中枢神経系)とした。	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	2021.10修正			
25B0055	2-エチル-1-ヘキサノール	104-76-7	特定種の臓器毒性(単回暴露)	区分2(呼吸器)、区分3(麻酔作用、 <b>気道刺激性</b> )	健康有害性 感嘆符	警告	H371: 臓器の障害のおそれ(呼吸器) H336: 呼吸器への刺激のおそれ(直接作用、 <b>気道刺激性</b> ) H336: 眼気又はめまいのおそれ(麻酔作用、 <b>気道刺激性</b> )	P308+P311: 暴露又は暴露の懸念がある場合:直前に連絡すること。 P260: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 P264: 取扱後は...よく洗	区分2(呼吸器) 区分3(麻酔作用)	健康有害性 感嘆符	警告	H371: 臓器の障害のおそれ(呼吸器) H336: 眼気又はめまいのおそれ(麻酔作用)	P308+P311: 暴露又は暴露の懸念がある場合:直前に連絡すること。 P260: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 P264: 取扱後は...よく洗	2021.10修正							
25B0055	2-エチル-1-ヘキサノール	104-76-7	特定種の臓器毒性(単回暴露)	区分2(呼吸器)、区分3(麻酔作用、 <b>気道刺激性</b> )	健康有害性 感嘆符	警告	H371: 臓器の障害のおそれ(呼吸器) H336: 眼気又はめまいのおそれ(麻酔作用)	P308+P311: 暴露又は暴露の懸念がある場合:直前に連絡すること。 P260: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 P264: 取扱後は...よく洗	区分2(呼吸器) 区分3(麻酔作用)	健康有害性 感嘆符	警告	H371: 臓器の障害のおそれ(呼吸器) H336: 眼気又はめまいのおそれ(麻酔作用)	P308+P311: 暴露又は暴露の懸念がある場合:直前に連絡すること。 P260: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 P264: 取扱後は...よく洗	2021.10修正							